

発行所
石川県保険医協会
金沢市尾張町1丁目9番11号
〒920 尾張町レジデンス2F
電話 (0762) 22-5373番
発行人 後藤博之
印刷所 ユーアイ印刷
(会費月額 3,800円)

石川保険医新聞

《主な記事》

- 2面 署名数1万人突破
- 3面 協会10大ニュース
- 4面 泉野保健所との懇談会
- 5面 審査委員との懇談会
- 6面 スタッフ講習会報告

会員600人達成

医科四四六人 歯科一五四人

待望の六百人会員(医科四四六人、歯科一五四人)を十一月末に達成した。十五年前の協会発足時の会員数(百四人)からみれば、およそ六倍の会員増加である。開業医の中の会員比率も医科六四・九%、歯科四三・五%となり、現在では新規開業の先生はほとんど入会していただける状況である。

協会活動への期待高まる

今年五月の総会時会員数は五百八十三人であった。これ以降の入会は医科十七人、歯科七人。一方、死亡や高齢による退会七人で、

社会的影響力強まる

六百人会員達成が何を意味するか。それは協会の財政基盤の確立はもとより、県内において医療と福祉の向上をめざす団体として社会的影響力が一段と大きくなったことである。それだけに協会の社会的責任もこれまで以上に重くなるであろう。

本号は保険医協会へ未加入の先生にもお届けしました。「入会申し込み書」を同封してあります。先生のご入会を心よりお待ちしております。

持論

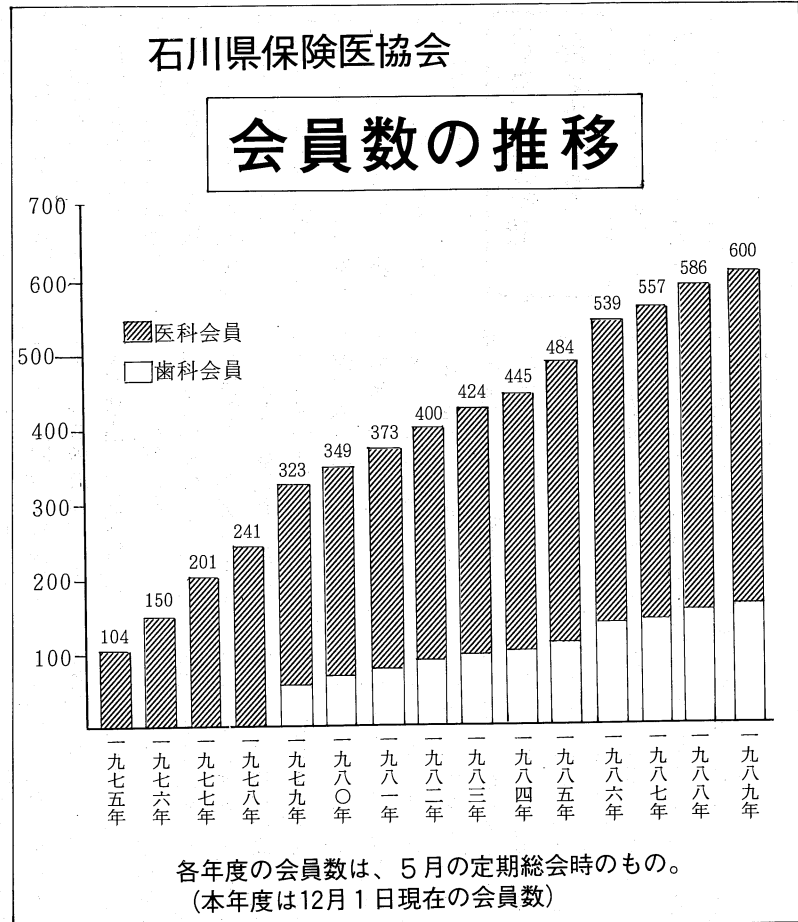
日本経済は今三年つづきの「高原」景気とやらに湧き立っているそうである。それに引き換え、我が医療界はといえば、臨調路線に乗り、高齢化社会の影におびえて、十年余りも続けられている医療費抑制策の壁にぐるりを取り囲まれて、長い冬の時代に入ったままである。

ふたたび

再審査請求のすすめ

当協会としても、かねてから医療機関側からの再審査請求倍増運動を続けており、さらに「黄色いハガキ運動」を始めた。逆襲に転じようとして、最新統計

をみても、再審査請求の件数は保険者百に対して医療機関一の割合である。当協会が最近実施した審査アンケートや審査委員との懇談会の結果をみると、会員の五〇%以上が再審査請求を



保険医協会の原点に立って

政府の企図する「九十年医療改革」を始めとして、今後、医療情勢はますます厳しさを増すものと予測される。協会は「保険医の経営と権利を守る」「国民の健康と医療を守る」という二つの目的のもとに自らの意志で入会した医師、歯科医師の団体である。六百人会員達成を契機として、協会はいっそう会員の信頼を深め、国民の医療と福祉の守り手として全力を尽くすつもりである。会員諸先生のご支援をお願いするものである。

医心凡話

一 洋費税導入に続く参院選での自民敗北、「天安門事件」、「東欧民主化」、「マニラのクーデター」と揺れ動いた一九八九年も師走に入り、何となく慌ただしくなってきた。

石川協会では長年の悲願であった会員数六百人をようやく達成した。会員獲得に奔走された先輩諸兄、事務局に快哉(かいさい)の拍手を送りたい。

協会運営安定のためにもさらに多くの会員の増加が望まれるが、開業医数が「頭打ち」の現状では、今後、勤務医会員の参入について配慮しなければならぬ。そのためには勤務医にもメリットが得られる協会活動に取り組む必要がある。

全国の開業医数は一九八一年から一九八六年の五年間に六万二千八百四十四人から六万一千九百十人へと一・五%減少、平均年齢も五六・六歳から五八・五歳へと高齢化が進んでいる。しかし先に行われた「勤務医の未来に関するアンケート調査」によると医師過剰時代を迎えて、若い世代に開業医志向が生まれているという結果が得られ注目された。とくに「開業を考えている」と答えたのは四十歳以下の世代に多く、「跡継ぎ」の割合が高かったという。

折りしも協会では「承継問題」に関する特別企画を用意していると聞くが、誠に時宜を得た計画と言えよう。

国民医療を守る
共同行動1,000万人署名

協会目標1万人を突破

12月5日現在で

13,348人分を集約

90年医療改悪阻止にむけて全国で運動が高まっています



11月19日、東京で開かれた全国決起集会のあと、都内をデモ行進する参加者。

老人会から 激励届く

九〇年以降に政府がもくろんでいる「医療大改悪」を阻止するために始まった「国民医療を守る共同行動」は、一千万人署名を中心に全国で運動の頂点に達している。

石川県保険医協会では、目標の一人を十一月中にすでに突破し、目標の五割増、一万五千人への到達が期待されている。

十二月五日現在の集約状況(下表参照)を見てみると署名に参加した会員は六十七人で、九千三百六十四人分を集約。老人クラブ四十九団体から二千九百五十六人分、その他製薬会社などの保険医協会取引先二十九団体から一千二十八人分、総合計一万三千三百四十八

人分が集められた。中でも百人以上の署名を集めた会員が二十二人に達しているのが注目される。

また、今年五月に開かれた第十五回定期総会で、多数の推薦を受けて新たに理事になった二人は、肩を揃えて一千人以上を集めるという快挙を成し遂げている。

老人クラブの代表からは「我々が中心になってやらねばならないことを保険医協会の先生方にやっていただき、大変恐縮です」というお礼が何件も協会事務局に寄せられている。

多くの 教訓残す

この署名運動では、保険医協会の今後の活動に大いに役立つ教訓がたくさん残された。特筆すべき一つは、「九〇年医療改悪」そのもの

の知らない会員が多数いたということである。ひいては実際に署名した県民のほとんどすべてが「始めて聞いたこと」「これは大変だ」「寝耳に水である」という反応を示している。署名運動に参加した理事・役員は「一回の署名を断わる患者さんは皆無」と口を揃えることからも明らか

かなように、国民にとって一大事にも関わらず、その内容を知らずして改悪しようとする政府の横暴ぶりがここにもはつきりしたといえるのである。

PR方法を 考えよう

同時に保団連、保険医協会では、早くからこの「九〇年医療改悪」の内容について会員に知らせてきたつもりではいたが、実際に伝

わっていない結果をみると、重要事項の伝達方法がまだまだあまいという反省をすべきであろう。

また、会員のみならず県民についても、医療の向上は県民とともに成し遂げていくことが重要であると思いつつも、その取り組みが弱かったことは大いに反省させられる。

国民医療を守る共同行動 1000万人署名集約状況

- 石川県保険医協会 13,348人
 - ・会員67人 9,364人
 - ・老人クラブ49団体 2,956人
 - ・その他29団体 1,028人
- 石川県全体(当協会分含む) 7万人
- 保団連(当協会分含む) 97万人
- 全国総合計 870万人

1989年12月5日現在

六六〇〇人の 全国集会

十一月十九日(日)、快晴に包まれた東京の日比谷野外音楽堂には、医師、歯科医師、スタッフ、事務局員、そのほか共同行動に参加するあらゆる構成員、六千六百人が結集し、共同行動総決起集会が開かれた。

当協会からの六人の参加者を含む石川県勢五十六人は早々と会場入りしたため椅子の確保はなんとか出来たが、みるみるうちに通路は埋まり、会場からはみ出す勢いであった。

最初に共同行動の松本推進本部長は「国民的な命を守る運動が広がりつつある。さらに運動を強めよう」と

署名運動におきましてはたくさんの方からのご協力をいただきありがとうございます。署名は一応本年末をもって終了させていただきますが、引き続き「90年医療改悪」阻止に向けての諸活動にご指導、ご協力をお願い致します。

(総務部)

これからが 正念場

「九〇年医療改悪」に対する反対運動は、共同行動におけるこの署名運動で終わったものではない。この署名運動をもってスタートしたというほうが正確である。

多忙な中で集められた署名を最も有効な手段で活用し、要求項目を一つでも多く実現させるために、多くの賛同と協力を切に希望したい。また、保険医協会執行部は、全力をあげて頑張りたいと思う。

あいさつ。続いて同推進本部事務局長の田中氏は、「共同行動が九〇年医療総改悪に先駆け、反対するだけでなく、八〇年代に失った制度の復活をかかげたもので、署名の数も運動の広がりも、医療保障の歴史の中でかつてない規模になっている」と報告した。

全国各地で活躍する多くの人たちからは、運動をさらに高める決意・報告が相次ぎ、「引き続き国民医療改善のための運動を広げ、医療・福祉を後退させる消費税の廃止を要求しよう」というアピールを採択した。

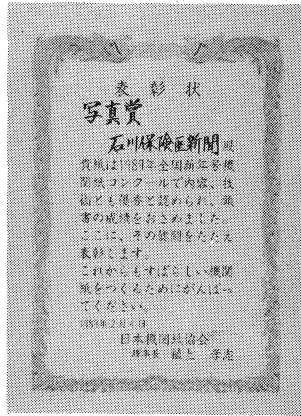
集会のあとは、参加者全員が東京都内をデモ行進。澄みきった秋空のもとで、「老人医療の差別化反対!」「医療法改悪反対!」など

① 会員600人達成



毎月新規開業医を中心に、着実に入会者が増える中、11月28日、菊地司先生(根上町・歯科)の入会をもって、600人会員を達成した。写真は一本のビールを分けあって“祝杯”をあげる理事会。

② 本紙、コンクールに特別賞



毎年応募している「日本機関紙協会」主催の新年号コンクールで、三年間の「佳作」の末、今年始めて特別賞(写真賞)を受賞。「優秀賞」への道へ一歩近づいた。

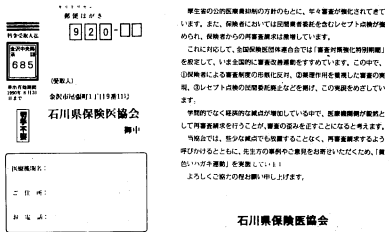
③ 「矯正歯科講習会」好評



今年3月から毎年1回、5回にわたって「矯正歯科」の講習会をシリーズで開催。のべ165人の参加者があり、好評を得る。写真は、第2回目の講習会

④ 8頁の「審査問題特集号」を発行 黄色いハガキ運動に大きな反響

不当な減点には必ず再審査請求を!!



今年審査問題に積極的に取り組んだ。「審査問題アンケート」には201人(45.8%・過去最高)から回答が寄せられ、これをもとに「審査委員との懇談会」を開いた。また、今年4月からの「黄色いハガキ運動」で毎月、保険医新聞に同封するのはがきは、コンスタントに返送されており、「黄色いハガキ検討委員会」の見解を随時掲載している。

⑥ 協会に顧問税理士を委嘱



会員からの日常的な経営・税務に関する相談に対して、正確・迅速に対応するために、中村栄希税理士を委嘱。今後「奥様サロン」や「新規開業医懇談会」、「経営対策懇談会」などを今まで以上に積極的に開催する予定。写真は奥様サロン

石川県保険医協会 一九八九年 十大ニュース

⑤ 副会長が3人に

- 平松昌司副会長(金沢市)
・学術・保険部
・機関紙・文化部
○菊地皓一副会長(根上町)
・歯科部
・共済・経営対策部
○大野幸治副会長(金沢市)
・総務部
・地域医療対策部

総務部、歯科部を始めとする専門部が、より活発になって、それぞれの専門性も高まってきたため、副会長を3人にして、1人2つの専門部を担当。

⑦ 協会事務所を拡張



2年前から適地を求めていた矢先、事務局の隣室が空くという情報を入手。以前の事務室を会議室兼発送・印刷作業室、隣室を事務所とした。事務局活動が一層効率的になり、近い将来の事務局員の増員にも十分足りるスペースとなった。

⑧ グループ保険の配当率が過去最高に — 6割以上の会員が利用 —

57.1%

毎年高配当で好評のグループ保険の配当率が、今年度は過去最高、57.1%を達成。もともと安い掛け金ながら半分以上が返金(死亡者のないとき)されたとあって、実に6割以上の会員がこの制度を利用している。また、保険医年金、休業保障制度も同様の加入率を示しており、保険医協会の共済制度はほかの追随を許さない。

⑨ 署名数1万人を超える

国民医療改善についての請願
衆議院議長・参議院議長宛
氏名 住所 職業

全国で取り組まれている「国民医療を守る共同行動」の署名数が当協会の自主目標1万人を超える1万4千人に達した。当協会における署名活動で過去最高数。

⑩ 金沢市内2カ所の保健所と懇談 医療・保健・福祉の連携をさらに推進



市内2カ所の保健所と、在宅患者の症例検討会を初めて開催したほか、「福祉マップ」をテキストにして、県下8会場にてスタッフ講習会を開くなど、在宅医療の推進のために活発な活動を行った。

第2回 保団連出版部会 報告

情報源として貴重な資料

『月刊保団連』

保団連出版部員 安藤良一



東京で開かれた第2回出版部会 写真左が安藤先生

十一月二十三日、表記の部会が東京であり、石川協会から安藤が出席しましたので、その要旨を報告します。

出席者は、保団連副会長、「月刊保団連」出版部長、担当常任幹事、編集委員、部員、事務局員の合計十三人で、議事は、①本年既刊号の反省、②今年度の活動総括と来年度の方針、③今後の企画立案、④その他、でした。

既刊号の反省ならびに今年の総括では特別な意見はありませんでしたが、医の原点に立って広い視野にわたる編集を...との発言があり同感でした。

床診療所問題の大きな参考となった。 保険審査委員との懇談

理事会点描 600人達成が「目玉報告」

第11回理事会 13人出席

第十一回保険医協会理事会は、十三人が出席して、十一月二十一日午後七時半より三時間にわたって行われた。 報告事項では、当協会会員数が目標の六百人に達したというビッグニュースが紹介され、ささやかな祝賀があげられた。 理事会では、こんなことはじめてである。

有床診療所問題に関する厚生省内部資料と保団連の有床診療所アンケート集計といった貴重な資料が提示され、今後の有

会の報告では、日ごろ審査委員の先生と親しい間柄にあり、深く突っ込んで

(林記)

来年の活動も、保団連の機関紙として会員の權益と国民医療を守ることを基本に、総会決定の運動方針の具体化に役立つよう努力するという、従来通りの方針を踏襲することに決定しました。 今後の企画では、保団連活動の重点課題である医療運動、開業医活性化、民主主義擁護、反核平和、組織拡大の目標をふまえて、随時に特集を組み、また連載も立案してゆくことを確認しました。 ちなみに、過去七年間の特集を対象別に大まかに分類してみますと、医政二十一件、医療十七件、保健十

泉野保健所との懇談会

さらに強めたい

医療・福祉・保健の連携

理事 井沢宏夫

在宅ケアをめぐる保健所の保健婦さんと協会会員との懇談会が開催された。 本年九月には元町保健所の保健婦さんとの懇談が行われ、今回で二回目。 今回は、泉野保健所の保健婦さんと、主として泉野保健所管内の協会会員が出席した。 集まったのは保健婦八人、協会会員六人、福祉部門から病院ケースワーカー一人で合計十五人。

開業医への期待高まる

意義大きい 症例検討会

懇談会の最初に、会員が往診し保健婦が訪問指導している共通の在宅患者についての症例検討を行った。 症例は三例で、いずれも高齢者で寝たきりに近い老人患者。主治医の先生(会員)より各症例につき、疾病状態、ADL、治療などの医

療面や、介護者の質、家族環境、福祉制度の利用状況なども説明してもらい、その後、保健、福祉、医療の面から検討を行った。「早く死んでしまいたい」という臥床老人に対する「生きがいの問題」、介護者や介護家族の経済的負担の問題、在宅での機能訓練の困難なことなどが討論された。介護者に対する特別障害者手当や介護手当などの提案があったが、後日主治医の尽力により支給されることになったそう、介護者に感謝されたという。 いずれの例でも在宅ケアをすすめていくうえで、医療、保健、福祉が協力しあえば、不十分な現在の制度の中でも、解決できる問題もかなりあると思われた。 今後、在宅ケアでは、医療、福祉、保健の各分野の参加する症例検討会は、具体的に寝たきり在宅老人のADLやQOLを向上させる上

新刊のご案内

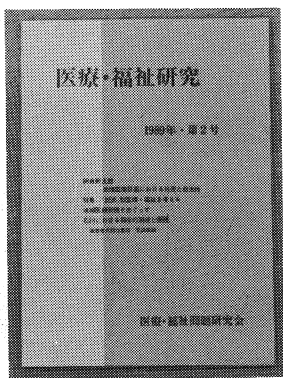
医療・福祉研究

1989年 第2号

特集 ①「民活」型医療・福祉を考える ②石川県における地域医療計画をめぐって <編集・発行> 医療・福祉問題研究会

◎お申し込みは協会事務局まで (送料は当会が負担します)

☎0762 (22) 5373



B5版 116頁 1冊 1,000円

囲碁解答 (Go board diagram and text) 白1が急所、隅の曲がり目で黒死となりま



24人が参加して開かれた審査委員との懇談会
11月18日 金沢都ホテル

201人からのアンケート回答をもとに 審査委員との懇談会開く

十一月十八日、毎年恒例になった審査委員との懇談会が金沢都ホテルで開催された。社保審査委員の矢崎敏夫先生と国保審査委員の津田功雄先生が出席され、審査委員の立場から発言された。

今年度の審査問題アンケートは、二百一医療機関より回答があり、過去最高の回収率となった。それにともしない具体的な減点(査定)事例が数多く寄せられる一方、再審査請求に対する意見、審査委員に対する要望・期待もたくさん寄せられた。

懇談会では、このアンケートを集約した十月二十五日発行の『審査問題特集号』を題材に、個々の問題事例に対する審査委員の意見を求める形となった。以下具体例を列挙するの

で、特集号を併読していただきたい。
感冒などで初診が再診とされたのは、治療年月日の記載もれと考えられる。納得がいかなければ、再審査請求。時間外・休日・深夜の加算を査定されたというの、回数・頻度の問題である。日曜当番医をしたために休日加算が多かった場合は、レセプトを見ればわかるので、問題にはされない。一枚のレセプトで時間外がほとんどというのが問題になる。保険者が患者教育すべきであるという診療側の意見ももっともであるが、常識的なところでしか言えない。いつももめるところである。

インドメタシン、ケトプロフェンの坐剤は、解熱を目的に使用することはできなくなった。再評価された結果であり、再審査請求しても復活はしない。
自律神経機能検査の解釈に間違いあり。訂正しておきます。(下欄参照)

糖尿病であれば、グリコヘモグロビンは月一回、フルクトサミンは月二回認められ、両者併施の場合はそれぞれ一回づつ。一回のみのインスリン測定は無意味。パップ剤は六〇〇gから八〇〇gまで。シアル酸とCRPの同時測定は認められない。

高血圧症のみでUCG検査は認め難い。最低限、注射が欲しい。
慢性疾患の治療中断後に初診料を算定するときは常識的に。短期間に算定回数が多いのは問題。

訂正とおわび

審査委員との懇談会で協会側から一部誤った回答をいたしましたので、お詫びとともに訂正致します。
「自律神経失調症を病名につけてあるのに、自律神経機能検査が通らない」の質問に対して、「自律神経機能検査は外来医学管理料に含まれますから外来医学管理料と同時に算定できない」旨の回答をいたしました。が、外来医学管理料に包括されているのは「自律神経機能検査」ではなく「簡易循環機能検査」ですので訂正いたします。従ってこの質問の場合、再審査請求を行うことによって復活することになります。

しかし「簡易循環機能検査」と「自律神経機能検査」の区別はかなりあいまいで、検査項目によってはいづれにも属する可能性も考えられるほどあいまいです。すなわち請求側と審査側でその解釈にずれが生じている可能性が考えられます。従って、診療側の解釈が受け入れられるような努力をしながら請求すべきではないでしょうか。例えば心電図上でRR間隔の測定は自律神経機能検査に属しますので、すでに査定されている場合は再審査請求されることをおすすめします。

「点数表」は臨床を知らない行政の作った、「未完成品」ですので、あいまいではつきりしない不備な部分が多く、これらの不備は臨床を担当する我々が補っていかねばなりません。

その他、事務員がつける審査委員によって審査内容が異なるのは、多少はやむを得ない面もあるが、基準を統一するべく審査委員会を幾度となく開いているとされないという答であった。

権利の主張は 再審査請求で

審査委員より支払基金と国保連合会の再審査請求の処理状況が報告されたが、圧倒的に保険者からの再審査請求が多く、事務処理に追われているという。薬剤の適応症に關しても、薬効が合えばなるべく認める方向で処理しているが、数が

1988年度石川県国民健康保険 再審査請求並びに決定状況

		国保一般	老人保健	
保険者及び市町村	申出者数	延 797	延 351	
	申出件数(件)	10,149	6,485	
	査定	件数(件)	5,332	3,734
		点数(点)	1,768,296	1,703,364
療養取扱機関	申出者数	延 117	延 68	
	申出件数(件)	138	100	
	復活	件数(件)	111	81
		点数(点)	60,072	73,237

保険診療上の問題点通報運動

黄色いハガキ運動

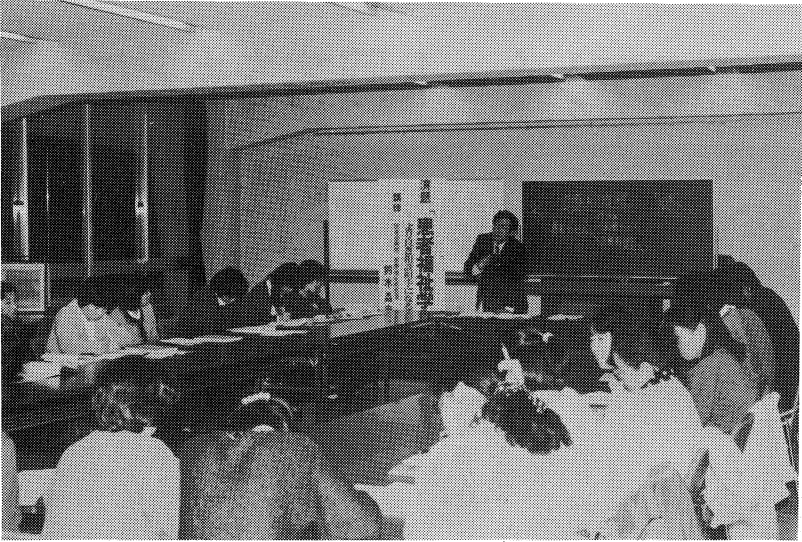
に参加しましょう

黄色いハガキは毎月『石川保険医新聞』と一緒に先生のところへお送りしています。不当な減点・査定、保険者の受診抑制を目的とした訪問指導…などの保険診療上の問題点・トラブルなどをお聞かせ下さい。

石川県保険医協会・黄色いハガキ検討委員会

向で処理しているが、数が多くなると難しい面が出てくること。返戻せずいきなり減点ということは原則としていないが、割と高点数のレセプトの場合にはわずかの点数のために返戻するとかえって医療機関にとってマイナスになることがあり、そのまま減点にしていることがあるという。
懇談会は終始なごやかな雰囲気で行ったが、やはり自分の権利は自分で主張しなければならぬという感を強くした。納得できない減点・査定に対しては、断固再審査請求をすべきである。
保険医協会では、今後も「黄色いハガキ運動」を続けるとともに、再審査請求を倍増させる運動に取り組む予定である。
(学術・保険部)

好評得たスタッフ講習会 県下8会場で開催



県下8会場で開催されたスタッフ対象の接遇講座
写真は輪島会場 (11月17日)

毎年恒例の石川県保険医協会が主催する「県下八会場でのスタッフのための講習会」は、十月十九日の加賀会場を皮切りに始まり、十一月三十日の金沢会場をもって終了した。

今年のテーマは「患者福祉学入門―より良き相談相手になるために―」と題し、講師に金沢市にある映寿会病院の医療ソーシャルワーカー・鈴木森夫氏を迎えて開かれた。

羽咋会場で若干の定員割れがあったものの、各会場とも盛況裏のうちに終了し、参加頂いた方々はもとより、講師の鈴木氏には心より感謝の意を表したい。

鈴木氏は、「地域の第一線の医療機関窓口で、病气や健康障害への対応と合わせて、患者さんやその家族が抱えている生活問題

最近、障害を残し介護を必要とする老人が退院となった場合、相談にみえる家族が後を絶たない。相談の内容は主に在宅での介護者がいないため、他施設を紹介してほしいというものである。

このような相談を受けると、つい家庭の事情・状況に同情し、施設入所の手続きや他病院(施設)への転院といった方法を家族へ提示してしまうことがある。

当院退院時においては一応事は済んだかと思うが、介護者がいない「問題は残存したままである。そういった援助のプロセスにおいては患者さん自身の想いはどこにあるのか、家庭の事情

小松会場

事務的ではできない 患者さんへの援助

辰口芳珠記念病院 小俣富美

適切なアドバイスができれば、地域住民と開業医との絆(きずな)が、これまでも増して強まることで「よう」と述べられた。加えて氏が「医療相談室」でのお仕事の中で得た様々な経験は、参加者に大きな共感を与え、医療機関での患者サービスがいかに大切であるかを知らしめるに十分であった。

今後ますます重要になる「福祉」の分野を、「患者サービス」として医療機関が扱えるようになれば、患者の療養において大きな助けになることはいうまでもない。

参加者に対して行ったア

を十分に考え合わせ、患者さんと家族の話し合う場を設定したか、振り返れば極めて事務的に対応してきた自分の関わり方に反省することが度々である。

今回、鈴木氏の話に「患者の抱える問題を知る」と

輪島会場

豊かな心で 患者さんに接したい

宮下医院 瀬戸克子

年齢と共に勉強らしいことから遠ざかり、家と職場の往復の昨今、久し振りにいいお話を聞かせていただく機会を得たことを感謝致しております。

今の世の中は、全てマスコミに追われているような者の抱える問題を知る」とあった。「知る」とは単に知っているという意に留まらず、相手の心(真意・感情)を分かち合えるという援助者側の感受性の豊かさを問われているのだから。その原点に発し、問題の所在を患者さん(家族)と共に整理し、当事者の葛藤をぶつけ合い、自分たちの力を十分に発揮できる過程をコーディネートしていくことが私たち援助者の立場と考える。

鈴木氏の講習を、つい日常業務の中で忘れがちな基本的な姿勢を正してもらいたい。そんな思いで聞かせて頂いた。

とかく人は(私は)相手の変化ばかりを求めてエネルギーを費やすことが多い。患者さん(家族)と共に問題にぶつかり、共に協力し解決するまで援助者自身が人間性を常に問われていることを意識し、患者さんたちと共に成長し、変わりゆく自分にも期待しつつ...

実り多い講習会、ありがとうございました。

安原明生会(壮年の会)で 第86回健康なんでも相談を開催



26人が集った安原明生会主催の健康なんでも相談 11月20日安原公民館

●老人健康と長寿十則

- 一、少肉多菜
- 一、少塩多酢
- 一、少糖多果
- 一、少食多齧
- 一、少煩多眠
- 一、少怒多笑
- 一、少言多行
- 一、少慾多施
- 一、少衣多浴
- 一、少車多歩

十一月二十日、午後七時半から安原公民館(金沢市福増町)で、第八十六回「健康なんでも相談」が開かれた。

主催はこの健康なんでも相談を年二回定期開催している安原地区壮年の会、安原明生会で、この日は二十六人の参加者が集った。

今回のテーマは、「健康な老後の秘訣」と「貧血と食生活」で、最初に石川ヤクルトの協力を得て、同テーマの十六ミリ映画が上映された。

大崎先生は、重大な病気による貧血は恐いので、心配があれば検査が必要だが、そうでなければ映画に見るほど食生活を気にすることはない。妊娠中でも鉄分が足りなければ点滴注射で十分補える、と説明され、話題を更年期障害に移された。

さすがに産婦人科の先生のお話は、参加者を飽きさせることなく、活字にするのと赤面しそうなセックスの話も、実に清潔に自然に聞こえるから不思議である。

参加者から拍手喝采を浴びた安原地区での健康なんでも相談、このつぎは来年三月ごろに開かれる予定である。

西村先生は「健康十訓」を用いて、健康は日常生活からつくられることを力説され、はつらつとした老後を過ごすための秘訣を話された。

つづいて内科の西村邦雄先生と産婦人科の大崎勝三先生が、映画の補足説明をされた。

の心がなごまれているかが疑問です。

これから私たちが、年と共にどのような世の中に変わっていくかも知れませんが、健康で働かせていただいている限り、少しでも患者さんの気に入られるような態度で接したいと思っております。

特に最近では、設備の整った病院を利用されている患者さんは幸せだと思えますが、その分、私たちが心を持って患者さんに接して行きたいと思えます。

来年もぜひ、このような講習会の開催を期待します。

(S)

会員投稿

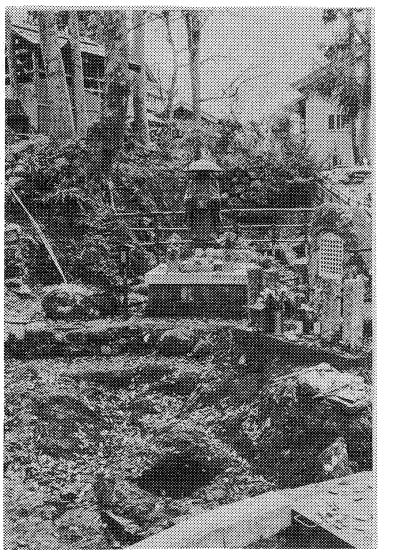
手取クリニック10周年に寄せて

白山麓に医療の光を ミニホスピス建設をめざす

手取クリニック院長 五嶋 亜男 (石川郡鳥越村)



患者さんと楽しく語らいながら食事療法をするために設けられた食事療法室。写真手前に調理場とカウンターがある。



手取クリニックのすぐ近くにある全国名水百選のひとつ、弘法池

無医村のホーム ドクターを志して

私は医学生時代、良いホーム・ドクターを志していた。しかも無医村で働きたいと思った。

ある日、公衆衛生学の講義で重松逸造教授は、「卒業後すぐには無医村へ行かないように」と諭された。一九六八年三月に医学部を卒

業したが、学園紛争の中で、インターン制度は廃止された。私は母学の附属病院で一年間、内科学、皮膚科学、泌尿器科学、麻酔科学、そして病理学など広範に研修を受けた。当時、学位ボイコットが卒業教育改善の第一手段であったが、す

時までの時間帯にせざるを

一、診療時間について

医療サービスである。患者さんが受診しやすい時間を診療時間にするのが最も大切であると思う。白山麓の住民にとっては、夕刻の受診はできるだけ遅い時間帯がよいだろう。しかし、私には医師会その他の研修会にも出席しなければならぬため、現在の診療は五時から七時までとしている。

二、カルテの記載について

地域によってはチーム医療がなされている今日、医療従事者は診療所見を詳細にカルテに記入することが肝要であるが、その記載にはワープロを利用すれば、カルテはすべての人に読みやすい活字で記入されることになる。また、カルテの保存は大切であることはいうまでもないが、患者さんの生命の記録として迅速に引き出すために、カルテのコンピュータ化を徹底すべきであると考えている。

三、食事療法室について

食事療法の重要性は言わずと知れたところであり、当院では食事療法の個人指導を行っている。予約制のた



着工中の「あすなるルーム」と「うるおいルーム」(個室の病室)

四、音楽療法室について

ご存知のように欧米では音楽療法士という専門職がある。精神科ならびに心療内科の分野で音楽療法は重要な役割を果たしている。当院では昨年四月に音楽療法室(やすらぎルーム)が完成して以来、私はできるだけ音楽の勉強を行い、老人性痴呆、不眠症、神経症、心身症、うつ病、そう病などの患者さんの診療に応用している。

五、東洋医学と自然医学

当院診療の根幹をなしている思想は、永遠のベストセラーである聖書に基づいており、当院では西洋医学一辺倒の道を選んでいる。

六、予防医学の重要性

病気にならないように努め、疾病が重症化しないようにするには、予防医学を実践しなければならない。いわゆる「転ばぬ先の杖」となる医療が大切であり、当院では往診による家庭健康管理と人間ドックの充実が心掛けていく。特に後者のドックにはシステム医療がなされねばならず、プライマリケア医と専門医の連携が重要である。

七、将来への展望

白山麓一帯は長い間、医療の谷間であった。「暗やみの中にすわっていた民は



原稿募集!

テーマは何でも結構です。ご投稿をお待ちしております。(編集部)

また個人は、がんの末期の患者さんに終末医療を行うためにいろいろと準備をすすめている。現在着工中の病室(「あすなるルーム」と「うるおいルーム」)と「あすなるルーム」(個室)の設置はその第一段階である。将来は庭園と菜園と薬草園に面した特別室の建設ならびに茶室の完成を願っている。

「白山麓に総合クリニックとミニホスピスを！」これが私はじめ当クリニックに關連する人々のスローガンなのである。

「南ニ死ニソウナ人アレバ行ッテ怖ガラナクテモイト言イ」(宮沢賢二「雨ニモマケズ」より)

食(べ)歩(き)会

つじや

金沢市中央通町 2-1
☎ (0762) 21-1515

師走ももうすぐと云うのに冬の気配さえ感じられない十一月二十四日、恒例の食歩きは片町新橋の袂、「つじや」が会場となりました。「つじや」はすぐ隣に鮮魚店も経営していて、安くておいしい料理を出していたので地元では評判のお店です。

常連参加の細川ご夫妻、加藤ご夫妻が医会の都合で欠席され、当日の参加者は十人となりました。乾盃のあと、小森先生の奥様と私が初参加のため自己紹介をしていたのですが、それぞれユニモアたっぷり、コチコチになっていた私もしいに気が持たなくなりました。

次から次へと出されるお料理の圧倒的ボリュームと新鮮さ、白子・カニ・鴨のじぶ煮、中でも圧巻はヒラメの生き造りで、食いしん坊のわが宿六や、食べることは一家言ありそうなの諸先生方も大満足のようでした。

ひと腹できたところで店のご主人がやおら扇子を持って現れ、加賀宝生の小謡「狸々」の一節を朗々と謡って下さいました。

「夜も尽きし、よろず夜までの竹の葉の酒、汲めども尽きし呑めども変はらぬ秋の夜の盃」。謡もいものですね。加賀文化の奥の

毎回参加の主人
その気持ちが分かった

西村晶子 (金沢市長土堀)



新鮮でボリューム満点の料理、そして尽きない話にご満悦の参加者
11月24日 10人参加

深さが心に染み渡りました。ムードはいよいよ盛り上がり、高松ご夫妻の漫才を思わせるお話から、柳下先生、小森先生の下着に関する秘密、はては越中……の効用まで、おなが痛くなるほど笑いころげ、あつという間に二時間がすぎました。主人が

。。。。。。お願い。。。。。。

先生のおすすめのお店をご紹介ください。和食、洋食、中華などを問いません。次回は来年三月ごろに予定しています。奥様とご一緒にぜひご参加下さい。

税務のご相談は
保険医協会へ

保険医協会では、会員の先生方からの日常的な経営・税務相談活動を強化するため、中村栄希氏に協会顧問税理士を委嘱しています。

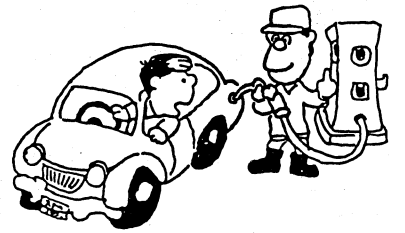
今後、先生方からの経営・税務に関する質問、相談などお気軽に協会事務局までご相談ください。協会事務局では相談事項を整理して中村税理士に伝達し、回答要旨をまとめて相談者にお知らせしたいと考えております。

なお、複雑な問題については直接、中村税理士にお問い合わせしていただくこともできます。

石川県保険医協会
☎0762 (22) 5373

エッソカードが全国カードに!!

保険医協会が低価格で斡旋しているガソリンは、今までは日本石油発行のカードのみが全国内で利用できましたが、このたびエッソカードも全国カードになりました。



両方作られても結構です。ご希望の方は協会事務局までお申し込みください。

《保険医協会 年末・年始休務のご案内》

下期の期間、休務いたします。ご了承ください。

12月29日(金) から 1月5日(金)まで

観葉植物型空気清浄器

。。。10日間無料貸し出し実施中。。。

保険医協会が低価格で斡旋中の観葉植物型空気清浄器が、10日間のモニター利用できるようになりました。

この機会にぜひお試しください。

お申し込み・お問い合わせは

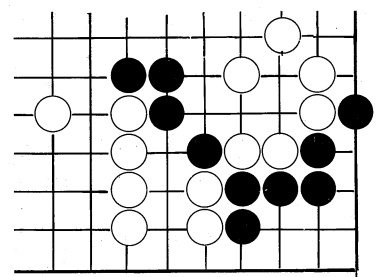
保険医協会まで
0762 (22) 5373



観葉植物空気清浄器

碁

出題者
六段 向井富治 (金沢市・内科)



県医師会の碁碁大会で高野昭雄三段と田丸忠良四段の対局に出来ました。白先でどうなりますか。(解答 4面)